

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170300267
法人名	社会福祉法人 親誠会
事業所名	グループホーム ひまわり昭和町
訪問調査日	平成19年 9月 3日
評価確定日	平成19年 9月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170300267		
法人名	社会福祉法人 親誠会		
事業所名	グループホーム ひまわり昭和町		
所在地 (電話番号)	鳥取県倉吉市東昭和町143番地 (電話) 0858-48-0055		
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取市湖山町北2丁目116番地		
訪問調査日	平成19年9月3日	評価確定日	平成19年 9月28日

【情報提供票より】(19年8月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.0人

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造	
	2階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 800 円			

(4)利用者の概要(8月22日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	74歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	野島病院 北岡病院 あけしま歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中心市街地の閑静な住宅街の中に立地する一般民家型のグループホームである。敷地は広く大きな樹木や草花も多く植えられ認知症高齢者には馴染みやすく、落ち着けるたたずまいである。管理者、計画担当者共に認知症介護経験は10年以上あり、職員の介護経験も平均5年以上とベテランが多い。管理者は理念を生活理念としてより分かりやすく、具体的に表現して掲示しており、利用者に寄り添うようにして家族のように暖かく、利用者が主体的にその能力に応じて自立できる支援の理念どおりの生活支援を行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域への理念の啓発では日々の様子のビデオを作製し運営推進会議で放映している。献立表にカロリー計算を取り入れるという項目ではメニューにカロリー計算が記載されている等前回評価での要改善項目はすべて改善計画が立案され、改善されている。</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員全員で担当項目を決めて作成し、後日職員会議であるカンファレンスの場で検討して最終的に決定した。職員は外部評価、自己評価の意義は充分理解しており、年一回の評価を自らの提供しているサービスを改善する機会と捕らえている。</p>
重点項目	<p>③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の参加者は利用者、ご家族、地域住民、行政等で構成されており、定期的に開催されている。運営推進会議ではグループホームの日常の様子を撮影したものをテレビで放映して委員に分かりやすく説明しており、映像を見た委員からはより具体的な意見が受けられる。地域の代表が変更になった場合等はお伺いして運営推進会議の意義や目的を理解していただけるように説明している。</p>
重点項目	<p>④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族が来訪された時には職員の方から積極的に声かけをしており、各種苦情相談窓口を書類で説明している。ご家族から外泊時の注意事項の相談や認知症の進行等の相談があるが、その場合も具体的に対応方法を丁寧に説明しており、ご家族からの苦情等は特無。</p>
重点項目	<p>⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元自治会に加入しており、自治会主催の敬老会や高齢者運動会に参加している。近隣の保育園の運動会を見学したり、又施設主催の納涼祭に地域の方の参加もあり、グループホーム主催のクリスマス会に子供会を招待して地域との相互交流を図っている。近隣の自家用野菜を持参されることも多く、避難訓練も合同で行い地域に溶け込んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別にグループホームとしての理念を定めており、さらに分かりやすいように生活理念としてより具体化した形で理念を表現して分かりやすい所に掲示している。職員会議の場であるカンファレンスでは利用者が主体となるように利用者の日々の様子を細かく把握する事を指示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員共に理念は理解している。朝礼等では気を付けることや明るく元気で笑顔で挨拶することの大切さを繰り返し説明し、グループホームの理念が実践できるように啓発している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	東昭和町自治会に加入しており、自治会主催の敬老会や清掃、高齢者運動会に利用者と共に参加している。グループホーム主催のクリスマス会に地元の子供会を招待して利用者と一緒に遊んだり、食事をして色々な地域の方達との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は外部評価、自己評価の意義を理解しており、今回の自己評価も職員全員で項目ごとに担当して作成し、後日カンファレンスで話し合っ作成した。前回の外部評価結果の要改善事項については改善計画を立案し、職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されている。利用者、ご家族、地域住民、行政等の委員で構成されており、グループホームでの利用者の日々の様子をビデオで撮影してそれをテレビで放映し、委員のグループホームに対する理解を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は倉吉市の担当者には空室ができた時や分からない事がある時等に連絡している。又施設で定めた以上の事故の場合の事故報告も行なっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会は年二回行なっており、ご家族の来訪時には積極的に声かけをして、日々の様子や体調、入浴、排泄等の様子を細かく伝えている。ご家族には月に一回写真入りのホームたよりを送っており、金銭出納帖も来訪時に提示している。	○	ご家族に写真入りのホームたよりを送付しているが、その中に利用者個々の日々の様子や管理者及び担当者のコメントを記入をして、ご家族に分かりやすく伝えることが必要と考える。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見を言いやすくするために来訪時には積極的に声かけを行い、家族会でも積極的に発言を求めている。法人及び市町村の苦情相談窓口の記載もあり、職員も話しやすい雰囲気作りを心がけて、相談に乗っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としての定期的な職員の移動は無く、退職による移動は年間約一人位である。補充職員は認知症介護の経験者が多いが、最低一週間は新人研修を行い、引継期間は一ヶ月を目途としている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同業者で作る協会主催の相互研修に参加しており、毎年他法人の二ヶ所のグループホームとの相互研修を実施している。研修報告もされており、研修後の他職員への内容の共有もなされている。が経験年数別の研修計画が立案されていない。	○	経験年数別又は階層別の研修計画を立案し、新人は初期段階の研修内容で、ベテランにはリーダー研修等のそれぞれの経験及び立場に応じた研修を実施する必要がある。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者で作る協会に加盟しており、協会主催の相互研修や講習会等にも参加している。同法人の他のグループホームとの交流もあり、情報交換やコミュニケーションを図ってサービスの改善に結びつけるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望の申し込みがあった場合は最短でも1ヶ月の期間を設け、その間に訪問して本人やご家族の面談を重ね、又来訪していただきながら徐々に本人やご家族に慣れていただいて職員間でも事前に本人の情報を共有して入所に至るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者及び職員は本人の生活暦や趣味を把握して掃除や台所仕事、庭仕事、カラオケ、畑づくり等それぞれの得意分野で一人ひとりの能力が発揮できるように支援し、利用者からもありがとう、おいしかったよ等の言葉が帰ってくるように喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の係わり合いの中での会話や様子を通じて、一人ひとりの思いを汲み取るようにしている。困難な場合はご家族に生活暦や趣味を聞いていただき把握し週間サービス計画表を作成して利用者の思いに配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の会話の中での利用者の意向やご家族の来訪時にその意向を聞いたり、医師や看護師の意見も取り入れ、担当職員の意見、管理者の意見等を幅広く取り入れながら具体的な目標を立てた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一回の見直しが行われており、利用者、ご家族の要望や医師、看護師の意見も取り入れ、重度化しないような予防の面も取り入れ、具体的な目標の設定をした介護計画になっている。	○	現状では介護計画は三ヶ月に一回の見直しになっており、一ヶ月に一回の見直しが必要であり、アセスメントの実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保健サービスとしては医療連携加算や短期利用共同生活加算を受けており、看護師との契約もある。自主サービスとして理美容院、病院、個人的な買い物等への送迎等を行っており、医療との連携に対するご家族との合意はできている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院への受診希望に対してはご家族に対応をお願いしているが、ご家族が無理な場合は職員が対応している。月に一回の定期往診も行なわれており、受診結果もカルテに記載されて、ご家族に説明されている。日常の健康管理のことは看護師に相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについての説明は契約時に書面で確認を行なっている。重度化した場合や急変時には主治医、ご家族、職員が話し合いを行なって早い段階からターミナルケアについての意思の疎通が図られ安心して終末期を迎えられるような支援体制が整っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のかかわりの中で誇りを傷つけることの無いようなさりげない排泄介助や小声での呼びかけを行なっている。又職員は個人情報保護法の理解に努め、プライバシー保護の徹底を図っている。PCのデータの持出しは禁止しており、不要書類はシュレッダーで廃棄している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの暮らしの流れを把握しながら、その日にしたい事を聞いて、ドライブに出かけたり、畑仕事をしたりしてその時の本人の気持ちを大切にして、利用者に合わせた見守りをしながら生活を送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近くの山で取れた山菜や畑で取れた野菜を収穫して、そのまま食卓へと旬の食材を取り入れたメニューを工夫をしている。職員は利用者と一緒に同じテーブルで食事をしており、利用者との会話を楽しみながら利用者のペースで支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康状態や生活習慣等を把握しながら毎日入浴は可能であり、入浴時間には関係なくシャワー、足湯等を行っており、入浴拒否の利用者には時間や人を替えて声かけして毎日の入浴を支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族の話や利用者との日々の接触の中での話や本人の古い写真をみせてもらったりして生活歴や趣味を把握し、一人ひとりの好きなこと及び出来る事を把握して、台所仕事、畑仕事、洗濯物たたみ等それぞれの利用者にあった支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせてほぼ毎日買い物や散歩に出ており、五感を刺激するためにバラ園やイチゴ狩り等の季節感がより感じられるところへの外出も行っている。歩行困難な利用者には車イスでの外出を支援し、外食も取り入れて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の不安や閉塞感等を解消するためにも鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、居室、玄関共に鍵をかけない暮らしをしている。近隣にも理解を求めて協力をお願いしており鍵をかけなくても安全に過ごせる支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回の消火避難訓練が計画され、消防署や地域住民との合同の訓練も行なわれており、緊急連絡網を通しての夜間の呼び出し訓練も行なわれている。消火器の設置はあり、災害時における備品の準備もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からのアドバイスを取り入れた献立を作成しており、一食ごとにカロリー計算がされ、一人ひとりの一日の栄養摂取量や食事量、水分量は記録されている。食欲低下や水分量の不足の場合は果物やゼリーでも補い、医師の指示が有る場合はそれに従った支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い一般民家であるが台所や居間は採光が良いために明るく、トイレも多く設置しており、庭には大きな樹木や草花が生い茂り季節の移ろいを感じられるたずまいである。居室部分は新しく増築や改装されており、明るい雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には絵や思い出の品、洋服ダンスや衣装ケース等の使い慣れた家具が持ち込まれている。希望により簡易トイレの設置もあり、介護度に応じたトイレ、ベッド等の備品の対応があり、利用者にとって居心地の良い空間になるような配慮がされている。		